

あろま

2011.1.11.

学校体育研究同志会東京支部 西多摩ブロック

12月例会 シュートボール(低学年)の授業案づくり

12月18日(土)にあきる野・屋城小で西多摩ブロック12月例会が開催されました。この日は8人の方が参加され、低学年のシュートボールの授業案づくりについて意見を出し合いました。この日も活発な話し合いで、とても充実した例会になりました。

近況から

1年生から2年生へと2年間続けてもつことができ、やっとやりたいことができるようになってきた。リズム縄跳びをグループでつくっている。手足にマヒのある子どもできるようになってきたので、授業参観で発表したいと思っている。(Aさん)

2,3年次研修の報告書は、自信のある跳び箱の実践でまとめて提出した。この間の報告でも話した体育がきらいな3人のうちの1人が、「体育もうやらないの?」と言ってきた。持久走をやっていることもあって、走ることが楽しくなったようだ。(Bさん)

学習発表会は不完全燃焼だったと自分では感じていたが、子どもや保護者には好評だったので、よかったと思えばいいのかな。校内研で取り組んでいるボールゲームは、「どうしてフラッグフットボールまでやる必要があるのか」という意見もあって、わかってもらえないもどかしさがある。(Cさん)

先日、明星学園の和太鼓部の演奏を聞いたが、とてもすばらしかった。(Dさん)

4月から算数少人数指導の担当をしている。1学期は楽しかったが、2学期になって難しさを感じている。少人数の加配がなくなるという話もあるが、今度は、体育はどうやるのかなという不安もある。(Eさん)

東京大会の推進講座に出て、球技についていろいろ話した。相手がどう受け止めたかはわからないが、満足して帰ってきた。冬大会に向けていろいろ勉強している。森さんの技術史はどう捉えられているか楽しみだ。冬大会では、あきれられるくらいやってこようと思っている。(Fさん)

学芸会が終わって跳び箱の授業に入った。子どもたちは跳び箱が好きで、横跳びこしに入って、目の色を変えて楽しくやっている。「牛乳飲むと骨がじょうぶになり、跳び箱がうまくなるんだよね。」と牛乳嫌いな子が牛乳を飲むようにもなった。通知表がパソコンになったが、パソコンに向かうと書くことが思いつかない。(Gさん)

フラッグフットボールの本に入れるためにタグラグビーの授業についてまとめたが、見てもらったら、簡単にまとめられていてすばらしいと言われた。気になるコメントが一つ、「しっぽとりゲームは鬼ごっこにするのかタグラグビーやフラッグフットボールに発展することを意識するのか。鬼ごっこという方法も捨てないほうがいい」というのがあった。

なぜ2:0なのか。個人技能の技術観ではなくコンビネーションの技術観を大事にするということだ。コンビネーションを中心にした学習内容をつくるのが大切。(Hさん)

新しいボールゲームを創造する

「低学年シュートボール授業づくりに向けて」という資料をつくってきてくれました。この地下さんの提案をもとにしながら、低学年のボール運動について話し合いました。

「基本の運動」の中でもやっておく

「ボールを投げたり捕ったりすることが上手にできない子も、的当てをやったら上手になった。上手な子の投げ方を見て学んだりもしている。」という話を受けて、ボール操作を身につけるために、ゲームの時間だけではなく基本の運動の時間も利用して、帯でとっていくのがよいだろうと話されました。

ゲームのおもしろさを低学年でたくさん味わえるように

ヨーロッパなどではどんな小さい子もサッカーを楽しんでいる。混沌とした中で、人と人とが関わりあいながらボールを操作するおもしろさがある。低学年では混沌としていてもよいから、遊びの中でボール運動のもっている楽しさを味わうことが大切だ。ボールをとって味方にパスすることもおもしろい。整然とされていく必要はない。子どもたちがおもしろいと思う世界をつかって、中学年以降のハンドボール等につなげるようにしたい。その中で、空間の使い方は最低限教えておきたい。

今ある「シュートボール」ではなく、新しいボールゲームを創造する

どこでもよくやられている「シュートボール」、真ん中に的があって、その周りに制限区域の円をラインで描き、その外側から360度どこからでもシュートできる、そうして得点を競い合うゲームですが、それでいいのかどうかということから問い直そうということになりました。

ゴール前方からしかシュートできないハンドボールと、360度どこからでもシュートできるシュートボールとでは、空間の使い方に隔たりがありすぎる。360度では空間の認識がむしろしにくい。それよりも、客観的なゴール空間を中心に右と左に分けたゲーム空間の方がわかりや

すいのではないか。

シュートボールはシュートを失敗してもゲームは続き、何度でもシュートしなおすことができるが、どのボールゲームでもシュートをしたら攻撃は終わりにするのが原則になっている。

ゴール空間やシュートが入った手ごたえをどうつくるか

そんなわけで、ゴールを前からのシュートだけにしようということになりました。

ゴールの大きさは、ゴールにキーパーが立って、上や左右にシュートできる空間があるようにする。(左右にシュートできる空間があることで、ゲーム空間を左右に分けて認識し、ゴール前で攻めるときの空間の使い方を考えることができる) また、シュートしたときの手ごたえを感じられるようにする。そして、ゴールが時間や手間をかけずに設置できるようにする。

そんなことを考えて、ゴールは、ダブルベッドサイズのシーツ(普通の布でもよいが)を、体育館のギャラリーから吊るすようにしようということになりました。

ゲーム空間とゲームの方法

- ・ゴール前に制限区域を設け、防御側の一人だけが制限区域に入ることができるようにする。
- ・ゲームが始まったときに、防御側がすぐに近寄ってこないようにして攻撃の態勢がとれるように、コートの中(ゲームを始める地点)に、ニュートラルゾーンを設ける。
- ・4人対4人のゲームにする。
- ・ボールの運び方は、次のどれでもよいことにする。
 - ボールを持って動く
 - ボールを手渡す
 - ボールを投げてパスをする
- ・ゲームが止まるのは、
 - ボールがコートエリア外に出たとき
 - 得点が入ったとき
 - 反則をしたとき(ルールについては子どもたちと話し合っ決めて)
 - 手以外でボールを扱ったとき
- ・ゲームの始め方
 - 先攻後攻を決めて、一方のチームが真ん中(ニュートラルゾーンのある場所)から攻撃を始める。

学習計画

- ・1時間目 オリエンテーション(学習の見通しをもつ、目標づくり、チームづくりなど)
- ・2時間目 投げる捕る練習、ルールややり方を覚えるためのゲーム
- ・3時間目 2人のコンビネーションからのシュート(ゴール前のシュートできる場所でパスをもらってシュートする)の練習とゲーム

と、ここまで話し合ったところで、もうかなり時間が過ぎていることに気づき、終わることにしました。このあたりまで授業を進め、続きは次回の例会で話し合うことにしました。

参加された方の感想から

シュートボールではなく、新しいゲームをつくっていく...、これはすごいことですが、自分が実践するというのはかなりプレッシャー。勉強し直し、教具を作り、がんばってみます。私なりに...

(Gさん)

新しいゲームをつくろう。
低学年のボール運動の教材づくり、これは楽しい。

(Fさん)

ハンドボールにつながる、新しい低学年のボール運動を考えました。今までのシュートボールに何の疑問ももたなかったのですが、今日はちがう視点で考えられて、よかったです。

地下さんの実践が楽しみです。

今、新しい歴史が始まっているのだと実感しています。

(Dさん)

新しいものを考え出すのは、たくさん意見が出て楽しいし、勉強になります。

今までシュートボールしか考えてこなかったなので、とても楽しみです。

体調が悪くて来られなかったHちゃんは損したかなと思います。

(Aさん)

一つの単元をつくるには、いろいろ考えなければならぬと改めて知った。最終目標(ねらい)を明確にもち、そのためにルールをつくっていく。必要な技能は何なのか。たくさん考えられて楽しかった。同じ学校、同じ学年なので、一緒に考えていきたい。

(Bさん)

低学年のボール運動について改めて考えさせられました。ボール運動、はじめの一步!! ボールを持つ、投げる、捕る、パスへ!!

子どもの目から見て、どうボールが映っているのか。そして、何がどうできるのか。その手順、次が楽しみです。

(Eさん)

シュートボールの教材づくり
学習内容は空間支配の能力をハンドボール型で考えたのだが、投動作が不十分な段階での空間認知能力は「持って走る」が基本である。

パス・キャッチ技術が入ってくると、それは次の段階になる。とりわけ「フォワードパス」を使ってのボール運びのゲームをどうつくるのか、子どもの認識・発達段階の問題とスポーツの技術構造の「折り合い」を見つけられるといいと思った。

(Hさん)

西多摩ブロック 1月例会のご案内!

日時: 1月22日(土) 午後1時~

場所: あきる野市立屋城小学校

TEL: 042-558 1129 (渡辺)

シュートボール(低学年)の授業づくり

& ハンドボール(高学年)の実践報告

12月例会で1年生のシュートボールの指導計画が地下さんから提案されました。ボールを投げることもままならない1年生にシュートボールの面白さをいかに味わわせることができるのか。1年生だから!ボール運動だから!ここにある「できる」と「わかる」がどのようにゲームという形で表現できるのか!

1月例会で、最初の試しのゲームを基に、再検討しようということになりました。

1年生のシュートボール、初めてのゲームとの出会いは、いかに?!

続いて井上さんから実践報告です。お待ちしております